

令和元年度 本渡東小学校 校内研修計画

I 研修計画

1 目的

- (1) 本校の学校教育目標「ふるさとを愛し、夢を持ち、未来を切り拓く、東っ子の育成」の達成に向けて、効果的な教育方法及び教育技術を模索し、よりよい教育活動を実践する。
- (2) 本校の課題を明確にし、その課題克服のための授業改善を通して、児童に基礎的な学力を身に付けさせる。
- (3) 教職員として、人格・識見・力量を高める。

2 方針

- (1) 国語科・算数科を中心に、児童に、知識・技能の習得及び思考力、判断力、表現力等の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
- (2) 児童及び教師の人権意識を高めるため、人権教育の研修を推進する。
- (3) 本校教職員が主体的に研修し、活発な意見交換を通して、個々の指導力向上を目指す。

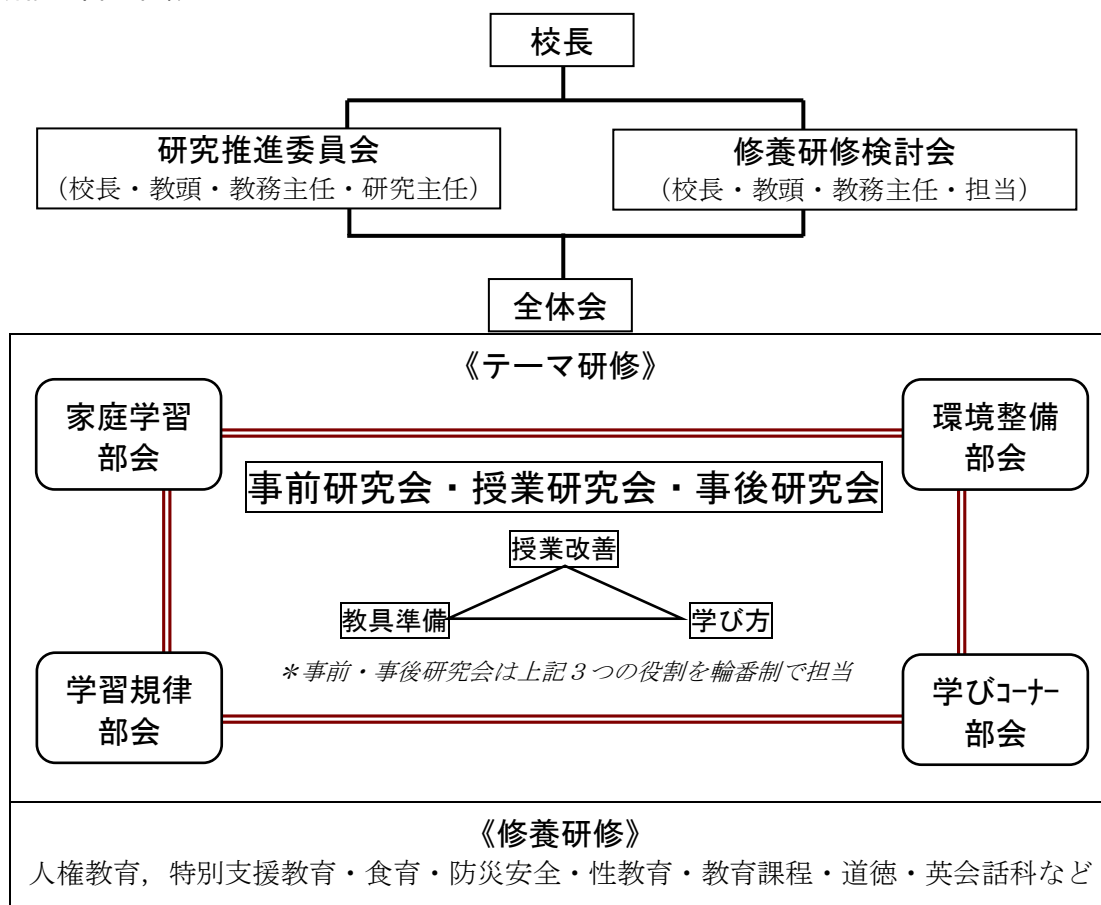
3 内容

- (1) テーマ研修
研究主題に基づいた、国語科・算数科・理科・英会話科の授業実践の研修を行う。
- (2) 修養研修
人権教育研修、特別支援教育研修・食育・性教育・教育課程研修・特別の教科「道徳」研修・英会話科研修等を行い、指導者としての資質向上に努める。

4 研修の方法

- (1) 原則として、毎週水曜日15:35～16:40に行う。
- (2) 児童下校後(火16:10～16:45、木16:25～16:45)に、適宜、部会研修等の時間を設ける。

5 研修運営の組織



Ⅱ テーマ研修

1 研究主題

主体的に学ぶ児童を育てる教科指導法の研究
～対話を生かした学びの深まりをめざす授業改善を通して～

2 研究主題設定の理由について

(1) 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「ふるさとを愛し、夢を持ち、未来を切り拓く、東っ子の育成」である。教育目標実現のためには、児童が自分自身を見つめ、夢実現に向け、「何を学び、どのように学んでいくべきか」を自問自答し、実践できる力を身につけなければならない。さらには、授業で経験する様々な学びの過程を通じて、自分の変容に気づき、「何ができるようになったのか」を実感し、その成長を、未来を切り拓く原動力となる「自己有用感」や「自信」に昇華させる必要もあると考える。そのためには、日々の授業における学びの質を高める方法を探るとともに、児童が学びの深まりを実感できる授業改善が重要であると考えた。

そこで、学びの深まりをめざす授業改善を通して、主体的に学ぶ児童を育てるための教科指導法の研究に取り組み、本校教育目標に関わる役割を果たしたいと考えた。

(2) 小学校学習指導要領解説総則から

改訂の基本方針③に、以下のように示してある。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

このように、生涯にわたって能動的に学び続けるために、児童の学習の質を高める必要性について明記されている。そのためには、児童の学びの質を向上させるための指導者の授業改善が必要不可欠となってくる。さらに、児童が「学習内容を人生や社会の在り方と深く結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ」るためには、自分自身と向き合ったり、様々な価値観を持った人々との対話したりして自身を磨くことができるようになることが重要であるとも考えた。

したがって、対話を軸として、学びの深まりをめざす授業改善を行うことが、主体的に学ぶ児童を育てることとなり、「主体的・対話的で深い学び」の実現にもつながると考えた。

(3) 各種調査結果概要等から示された課題から

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要を以下に示す。

国語科の主な課題として、

- ・主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめたり、複数の資料の内容を関係づけて理解したり、表現したりすること

などが挙げられている。

また、国語科の授業アイデア例「活用のポイント」では、

○主語と述語の関係に注意して文を正しく書くために、書いた文章を推敲する学習を繰り返し、書き直したものが読みやすくなり、相手に伝わったことを実感できるように指導する。

○文を書くときに、修飾と被修飾との関係や、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」など、文の構成について理解することが出来るように学習活動を工夫する。

○自分の考えをまとめる際には、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理する。

○相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げるなどして、自分の考えを筋道を立ててまとめることができるように指導を工夫する。

○児童が主体的に文章を書く活動に取り組めるように、推敲する文章を書く活動では、児童の興味関心に応じた題材を設定したり、目的や相手を明確にしたりする。

などが、示されている。

算数科の主な課題として、

- ・ 小数の除法の意味についての理解や、グラフから読み取ったことに基づいて適切に判断すること
- ・ 日常生活の事象を、数量を関連付け、根拠を明確にして記述すること

などが挙げられている。

また、算数科の授業アイデア例「活用のポイント」では、

○問題場面で、どの数量を求めているのか確認する学習活動を展開する。

○グラフから読み取ることができる数値を基にわかることをまとめて、説明する活動を取り入れる。

○他教科や日常の問題について、グラフなどを用いて考察する活動を設け、目的に応じて、数量や変わり方、全体に対する割合など複数の観点に着目して考察し、結論を導き出すようにする。

○答えを求めるまでに複数の段階がある問題の解決の際には、「なぜ、そのように考えたのか」を問うことで、複数の情報から数量を解釈し関連付けて、数量の関係を見だし、見通しをもつことができるようにする。

などが、示されている。

平成30年度熊本県学力調査結果（概要）に示された、「分かる授業」のための効果的な取組として、

○「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を提示し、解決の見通しをもてるようにする。

○めあてに沿って、「じっくり考え」「はっきり表現」させる場を設定する

○基礎的・基本的な知識・技能を定着したかどうか適用問題等で確認する。定着していなければ「きちんと教える」場を設定する。

○「何を学んだのか」がわかる「まとめ」を提示する

○「分かった」から「できた」へ誘う「振り返り」の場を設定する。

と、学習過程に沿って、「分かる授業」に欠かせないポイントが示されている。

さらに、『もう一步、前へ!!』では、

○子供たちが、この単元では、「何ができるようになればいいのか」「何を学ぶのか」を意識して授業にのぞんでいるか。

○子供たちが、「わくわくして」授業にのぞんでいるか。

と子供の立場から、指導者が自身の授業をふり返る視点が示されている。

これらのことから、「学習内容が分かり、できるようになったのは、どのように学んだからなのか」と、自分の学びをふり返る大切さを児童に実感させることが、一人一人の学びの深まりにつながり、さらには、「わくわくして」授業にのぞむ、児童の主体的な態度を育てることにもつながると考えた。

そのためには、日頃から資質・能力獲得に向けた手立てを指導者が吟味し、学校総体で日々の授業実践を通した授業改善に取り組むことが必要だと考えた。

(4) 平成30年度実施の各調査結果(児童の実態)と、平成30年度の研究内容との関わりについて

ア 本校の平成30年度熊本県学力調査結果より

算数科については、概ね県平均を上回り、観点「関心・意欲・態度」については6年生を除き、前学年が県平均を上回った。昨年度の取組が、研究主題に掲げる「主体的に学ぶ児童を育成する」ことにつながった。

ただ、国語科においては、県平均を下回る項目が多く、観点「関心・意欲・態度」については、どの学年においても県平均を上回ることができなかった。今年度、国語科における「主体的に学ぶ児童を育成する」ための授業改善が、より一層必要である。

イ 本校の平成30年度標準学力検査結果より

一昨年度に比べると成就値が-4未満の児童は約5pt減少した。また、成就値-7未満の児童も約2ptと僅かであるが、減少した。対話を軸にした学びの質を高める授業改善が児童の学力に良好な影響を与えていることが確認できた。

したがって、校内研修を通して対話を軸とした学びの質を高める授業改善を図ったことや、それを支えるために必要な児童の学び方について検討し、本校の全ての指導者が共通理解の下に指導してきたことが、良好な結果につながった。今年度も、昨年度に実践した

ことを継続するとともに、更に、成就値-4未満の児童数を減らす授業改善に取り組むことが、児童が自信を持つことにつながり、自己有用感が高まるものと考えられる。

ウ 平成30年度校内研修の成果と課題から

昨年度は、主に下記⑦、⑧の2点の視点から研究を進め、成果と課題が明らかになった。

⑦ 「学びの質を高める」対話を軸とした授業改善の手立てとその工夫について

各指導者が、対話を軸とした授業改善の提案を行い、授業研究を進めたことで、指導者各自の授業スキルや、児童の学習への興味・関心を引きつけるアイデア等を共有でき、指導者個々の指導力向上につながった。指導力の向上が、児童の学びの質を高め、各種調査結果の数値にも良好な結果として表れることを、改めて確認することができた。

また、学習過程に応じた適切な対話活動の導入は、授業の目標達成に効果的であることも分かった。

ただ、児童質問紙結果から、対話活動を好み、有用性を感じている児童が多い反面、自力解決時における一人学びに自信を持ってない児童の解消には課題が残った。

⑧ 「学びの質を高める」児童の学び方指導の手立てとその工夫について

昨年度は、指導者の手引きと児童用の手引きを作成し、対話活動の練習を段階的に講じ、発達段階に応じた話す・聞く態度や、発表や返事をするときの場に応じた声の大きさなど、授業に臨む基本的な態度を早期に身につけさせることができた。そのことで、授業における対話活動が活発になり、分からないことがあると指導者や友だちに尋ねたり、ヒントを出してもらったりと主体的に学ぶ姿が見られるようになった。

ただ、手引きに頼りすぎると、形式的な対話となってしまうので、児童の反応を観察し、その都度、表情で反応を示したり、間を取ったり、指導者が適切に発問したりして授業をコーディネートする力は、これからも意図的に磨いていく必要がある。また、今後は、対話内容の質を向上させ、一人学びに生かせるような手立てをし、学びの深まりをねらいたい。

上記ア、イ、ウのことから、今年度取り組むべき事項を以下の4点に整理する。

- ①昨年度の取組を継続できるように、再度、共通実践事項の共通理解を図り、成果が見られた観点や領域についても、児童が身につけた力を維持できるようにする。
- ②国語科において「主体的に学ぶ児童を育てる」ために、対話を軸とした日々の授業改善に取り組む。また、補充の時間等でも定着状況を確認し、熊本県学力調査において県平均を上回るなど、各種調査結果にも、授業改善の成果が現れるように努める。
- ③対話を軸として学びの質を向上させる授業改善に加え、個々の学びの深まりまでを意識し、児童が対話したことを生かして一人学びすることに充実感を感じられるような授業改善をめざす。さらに、児童質問紙の結果として、一人学びに自信を持ってない児童の解消が成果として現れるように努める。
- ④児童の対話活動への意欲は高まっているので、対話をどのように自分の学びに生かすのか、また、対話内容の質をどのように向上させるのか、具体的な方策を考え、学びの深まりをめざす。

以上の(1)、(2)、(3)、(4)のことから、今年度の研究の方向性を次のように考える。

これからの社会を担う子供たちにとって、主体的に学ぶ態度を身につけることは必要不可欠なことである。したがって、今後も、その態度を育てるために、対話を軸とした学びの質を高める授業改善を継続して実践し、昨年度の課題解消に向けた取組も行っていく。

昨年度は、対話活動を通した学びに充実を感じ意欲的な児童が多い反面、一人学びに自信を持ってない児童がいた。一人で学ぶときにも、主体的な学びを継続できるような工夫が必要である。そのために、身につけた対話能力を生かした学びの深まりを求める授業改善や、学び方の定着も必要となってくる。最終的な目標として、一人一人が自信を持って学びの独り立ちができるように授業実践していくことが、本校教育目標の達成にもつながると考えた。

そこで、研究主題を「主体的に学ぶ児童を育てる教科指導法の研究～対話を生かした学びの深まりをめざす授業改善を通して～」と設定した。

3 研究主題の分析

(1) 「主体的に学ぶ」とは

児童自らが課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、課題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見出したりするなどの学びと捉える。

(2) 「対話」とは

自分の考えたことに応えてもらったり、認めてもらったりすることで学習活動の楽しさや面白さ、充実感や満足感を感じて、次の活動への意欲を高めることができ、それが児童の主体性へつながると考える。そこで、「対話」を、よりよい考えや事柄の本質について説明し合ったり、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりする学びと捉える。また、本研究では、友だち同士の対話による学びや、教師と児童との対話による学びに加え、自分自身と内面的に対話して学ぶことも「対話」と捉えることとする。

(3) 「対話を生かした学びの深まりをめざす授業改善」とは

形式的に対話を取り入れることや特定の指導の型を指したものではなく、これまでの教育実践の蓄積から行われる授業の工夫・改善（発問、教材教具、学習形態、ICT活用等）を行い、昨年度、児童が身につけてきた(2)で示す対話を生かして、児童にとって深まりのある学びの実現をめざすことをさす。

「学びの深まりをめざす授業改善」とは、学びの深まりのプロセスに着目している。学びの深まりのプロセスとは、学習者の課題に対するアプローチの仕方である。課題となっている概念を児童が自分で理解できるようになるためには、対話を生かして、どのような学び方を身に付ければよいのか、そのために指導者はどう授業改善をし、児童への手立てを講じていくのかに焦点を当てている。

例えば、「学びの深まりをめざすことが実現されている」児童の姿として、概念を自分で理解するために、

- ・既習事項や経験と意図的に使う機会を増やしたり、関連付けたりしようとする
- ・共通点や相違点を探そうとする
- ・根拠を見つけ、結論と関連づける
- ・必要であるならば、暗記学習を用いる

などが考えられる。

逆に、「学びの深まりをめざすことが実現されていない」児童の姿として、指導者の授業を受け身で捉えることだけに留まり、

- ・既習事項を互いに無関係な知識の断片としてとらえる
- ・事実をひたすら暗記する
- ・決まった手続きをひたすら繰り返す
- ・目的なく学習する

などが考えられる。

ただ、学びの深まりをめざすためには、児童が学習内容を聴き取り、指導者が児童にしっかりと教える伝えることは、学びの深まりのプロセスの一部として大切なことである。

4 研究の仮説

仮説 学びの深まりをめざすために、対話を生かした授業改善を図り、児童が対話したことを自分の学びへ生かせる学び方指導の工夫をすれば、主体的に学ぶ児童が育つだろう。

5 仮説検証のための手立て

(1) 対話を生かした「学びの深まり」をめざす授業改善の工夫

指導者が、主体的に学ぶ児童を育てるために必要だと考える「学びの深まり」をめざす授業改善の手立てを導入し、その工夫を図る。

(2) 児童が対話したことを自分の学びへ生かすための学び方指導の工夫

学びの深まりをめざすために、発達段階に応じて対話の生かし方を自分の学びへ生かす学び方を明確にし、その学び方を児童へ指導する方法の工夫を図る。

(3) 「学びの深まり」をめざす学習環境の整備

学びの深まりをめざすため、基礎的・基本的な知識・技能を確実に児童が習得できるように教具を準備したり、既存の問題集を再整備したりして、それらを活用できるようにする。

6 仮説検証の方法

- (1) 児童質問紙回答結果分析
- (2) 検証授業における提案と授業内容分析
- (3) 各種調査結果分析

7 研究の構想(次ページ)

(研究の構想図)

【本校の教育目標】

ふるさとを愛し，夢を持ち，未来を切り拓く，東っ子の育成

【めざす児童像】

「思いやりのある子ども」 「よく考え進んで学ぶ子ども」
「健康でねばり強い子ども」 「ふるさとを愛し，誇りに思う子ども」

豊かな心

多様性・協働性

健やかな体

知識・技能

確かな学力

思考力・判断力・表現力等

主体的な学習態度

【研究主題】

主体的に学ぶ児童を育てる教科指導法の研究
～対話を生かした学びの深まりをめざす授業改善を通して～

主体的に学ぶ力

(1)対話を生かした学び
の深まりをめざす
授業改善の工夫

児童

対話
生かす

児童

学びの深まりをめざす

対話
生かす

(2)児童が対話した
ことを自分の学びへ
生かすための学び方

対話
生かす

(3)学習環境整備

教師

【仮説】

学びの深まりをめざすために，
対話を生かした授業改善を図り，
児童が対話したことを自分の学びへ生かせる学び方指導の工夫をすれば，
主体的に学ぶ児童が育つだろう。

基盤となる学級経営

地域・家庭・小学校との連携

Ⅲ 年間計画

回	月	日	司会	記録	テーマ研修	提案	修養研修	提案
①	4	10	松下	石井	共通実践確認, 大研時期アンケート	松下		
②		8	海内	竹内	研究主題及び計画共通理解	松下	人権教育レポートについて	生田
③	5	15	松本	角中	5年1組提案授業(算数), 事後研	松下		
④		29	生田	大塚	4年生事前研(算数)	櫻井		
⑤		5	生田	大塚	4年生授業研(算数), 事後研	櫻井	研究主任会復講	松下
⑥		11 火	生田	村上			(放)人権教育研修 レポート読み合わせ	生田
⑦	6	12	松下	清水	6年2組事前研(国語)	角中		
⑧		19	松下	清水	6年2組授業研(国語)	角中		
		25 火	松下	清水	[放課後] 6年2組事後研(国語)	角中		
⑨		26	浦島	蓮田	のびのび2組事前研	田尻		
⑩	7	2 火	浦島	蓮田	のびのび2組授業研 [放課後] 事後研(40分)	田尻		
⑪		10	竹内	海内	1学期のまとめ	松下	特別支援教育	梅田
⑫	夏季 休業日						実技研修(保育園訪問)	教頭
⑬							人権教育(現地研修)	生田
⑭	8	21	清水	松下	6年1組事前研(算数)	松本		
⑮		4	清水	松下	6年1組授業研(算数), 事後研	松本	研究主任会復講	松下
⑯	9	11	角中	松本	5年2組事前研(国語)	清水		
⑰		25	角中	松本	5年2組授業研(国語), 事後研	清水		
⑱	10	2	黒川	小笠原	2年生事前研(算数)	小笠原		
⑲		9	黒川	小笠原	2年生授業研・事後研(算数)	小笠原	英会話事前研	竹内
⑳		月	田中	村上	英会話授業研	竹内		
		火	田中	村上	[放課後] 英会話事後研	竹内		
㉑	10	16	大塚	櫻井	3年1組事前研(国語)	生田		
㉒		30	大塚	櫻井	3年1組授業研(国語)・事後研	生田	学力向上リーダー研修復講	
㉓		6	小笠原	田中	1年生事前研(国語)	黒川		
㉔	11	13	小笠原	田中	1年生授業研, 事後研(国語)	黒川	人権教育研修	生田
㉕		27	田尻	浦島	のびのび1組事前研	梅田 蓮田		
㉖	12	11	竹内	海内	2学期のまとめ	松下	特別支援教育	梅田
㉗		15	田尻	浦島	のびのび1組授業研, 事後研	梅田 蓮田	キャリア教育研修 教務主任会復講	海内
㉘	1	28	蓮田	梅田	[放課後] 理科事前研	海内		
㉙		29	梅田	田尻	のびのび3組事前研	浦島		
㉚		4	蓮田	梅田	[放課後] 理科授業研, 事後研	海内	復講	
㉛	2	5	梅田	田尻	のびのび3組授業研・事後研(国)	浦島	人権教育研修	生田
㉜		12	櫻井	生田	3年2組事前研(算数)	大塚		
㉝		26	櫻井	生田	3年2組授業研・事後研(算数)	大塚	復講	
	3	10 火	海内	村上	校内研修のまとめ・次年度の提案	松下		

※上記計画とは別に、不祥事防止研修(職員会議後)と、特別の教科「道徳」の授業研究会も実施する。